

第8回 新潟人間生活学会

2017年7月23日(日) 12:30～16:30 ※入場無料

会場

新潟県立大学 大学院棟 〒950-8680 新潟県新潟市東区海老ヶ瀬 471 番地
4101 講義室前フロア (ポスターセッション)
4101 講義室 (企画セッション)



第1部 12:30～13:30

ポスターセッション

【会場】4101 講義室前フロア

第2部 14:00～16:30

企画セッション

●司会/健康栄養学科教授 金胎 芳子 【会場】4101 講義室

★学会長挨拶

人間生活学部 学部長 村山 伸子

★シンポジウム

『子ども支援者を支援する』システムの構築

●コーディネーター/子ども学科教授 植木 信一

佐竹 直子氏 特定非営利活動法人 多世代交流館になニーナ代表理事 (30分)

登坂 康史氏 生活協同組合コープにいがた常勤理事 (30分)

横尾三代子氏 社会福祉法人新潟市社会福祉協議会 地域福祉課こども家庭事業推進係長 (30分)

★総合討論 (25分)

★ポスター賞発表・贈呈

人間生活学部 学部長 村山 伸子

★閉会の挨拶

子ども学科教授 斎藤 裕

問い合わせ先：新潟県立大学人間生活学部健康栄養学科 大会実行委員長 金胎 芳子
TEL:025-368-8267 E-mail:kontai@unii.ac.jp



シンポジウムの趣旨

テーマ：『子ども支援者を支援する』システムの構築

今日、地域で子ども支援を展開しようとする場合、住民主体の子ども支援者を養成し増やすことが課題となります。なぜなら、すべての地域にまんべんなく専門家による支援が行き届くわけではないからです。結果的に支援の届く子ども（地域）と届かない子ども（地域）のようなムラが生じる可能性があり、すでに外部からの支援に頼ることにも限界が生じていると考えられます。むしろ、これからの子ども支援においては、常態的な子ども支援のマンパワーを地域のなかで育成するしくみの構築が急務とされているのではないのでしょうか。

住民主体の子ども支援者を育成し増やすことは、地域住民が地域の課題を自分たちの課題として捉えることを可能にします。その際、地域住民が、どのように力量をつけていくかが課題となります。地域住民が、子ども支援者としての力量を継続的につけていくための「子ども支援者を支援する」システムの構築の検討が求められます。

【アクセス】



〒950-8680 新潟市東区海老ヶ瀬 471 番地
TEL:025-270-1300 FAX:025-270-5173
<http://www.unii.ac.jp/>

公共交通機関ご利用の場合

- ◎「新潟駅」万代ロバスターミナル11番のりばから「大形線」に乗車（所要時間約25分／片道330円）
「県立大学前」下車、徒歩2分
- ◎JR白新線「大形駅」下車（所要時間約10分／「新潟駅」より片道200円）、徒歩約15分
- ◎「新潟駅」からタクシーで約20分

